

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 17 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520553

研究課題名(和文)鎌倉時代浄土真宗資料に基づく日本漢字音の研究

研究課題名(英文) Study of the Japanese pronunciation of Chinese character's based on Jodo Shinshu's Buddhism document in the Kamakura era

研究代表者

佐々木 勇 (SASAKI, ISAMU)

広島大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：50215711

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：「鎌倉時代浄土真宗資料に基づく日本漢字音の研究」と題する本研究の目的は、鎌倉時代における日本漢字音の諸相を、浄土真宗資料に依拠して、解明することであった。これは、浄土真宗資料に漢字音注が密である利点を活かしたものである。この目的達成のため、まず、浄土真宗資料の原本調査をし、複製本・写真版を集めた。そして、それらに基づき、鎌倉時代の漢字・漢語音を蒐集・整理した。

本研究期間中に、親鸞自筆本における漢字音注のすべてを、コンピュータによって電子データ化することができた。ただし、それに基づく研究成果は部分的な発表に留まっている。今後も本研究を続け、その成果を発表していきたい。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study entitled "Study of the Japanese pronunciation of Chinese character's based on Jodo Shinshu's Buddhism document in the Kamakura era" was to elucidate diverse aspects of the Japanese pronunciation of Chinese character's in the Kamakura era based on Jodo Shinshu's Buddhism document. This applied that there was much pronunciation of Chinese character's in a Jodo Shinshu's Buddhism document.

At first, for achievement of this purpose, I did the original investigation into Jodo Shinshu's Buddhism document. And I collected cover bookbinding, phototypes. And, based on them, I arranged a kanji, Chinese word sound of the Kamakura era.

During this study period, I was able to make all of pronunciation of Chinese character's of the Shinran handwriting book electronic data by a computer. But the results of research based on it remain for partial announcement. I continue studying it and want to announce the result in future.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学・日本語史

キーワード：親鸞 漢字音 位相論 浄土真宗 呉音 声調

1. 研究開始当初の背景

浄土真宗古写本は、漢字音の発音を示す古訓点が多量に加点されている。しかし、それを活用した日本漢字音研究は、近年は、下に記す本研究代表者の論考以外は、多くは見られなかった。

1.佐々木 勇,鎌倉時代における漢字音の個人差 親鸞と恵信尼との比較、『古典語研究の焦点』、pp.721-738,武蔵野書院,査読無し,2010年

2.佐々木 勇,親鸞聖人筆『教行信証』の漢字音について,聖典編纂部門研究会講演(浄土真宗本願寺派(西本願寺)教学伝道研究センター),2010年1月27日

3.佐々木 勇,親鸞聖人の声点と入声音,聖典編纂部門研究会講演(浄土真宗本願寺派(西本願寺)教学伝道研究センター),2010年3月17日

4.佐々木 勇,親鸞聖人の仮名遣いについて,聖典編纂部門研究会講演(浄土真宗本願寺派(西本願寺)教学伝道研究センター),2010年5月24日

5.佐々木 勇,専修寺蔵『選擇本願念佛集』延書 影印・翻刻と総索引, pp.1-302,笠間書院,査読有り,2010年

6.佐々木 勇,親鸞と明恵の漢字音 漢字片仮名交じり文における比較,広島大学大学院教育学研究科紀要,第2部58号,査読無し,2010年

7.佐々木 勇,専修寺蔵顕智本『浄土和讃』『正像末法和讃』の訓点について,ことばとくらし,第22号,査読無し,2010年

研究代表者は、その研究の進展のため、本研究課題を進めようと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、鎌倉時代における日本漢字音の位相差を記述し、それを総合的に研究することである。

そのために、字音の加点が豊富な、浄土真宗古写本を研究対象とする。

鎌倉時代浄土真宗資料は、宗祖親鸞自筆本を中心に、字音直読資料・仏書訓読資料・和化漢文訓読資料・漢字片仮名交じり文・漢字平仮名交じり文・仮名文を、大量に現在に伝えている。そして、同時代の他資料には振り仮名が加点されることが希な仮名書簡中の漢

字にまで、振り仮名を付すものが少なくない。

このような浄土真宗資料を活用することによって、当時の漢字・漢語の読みを、明らかにし、位相別に記述・比較・研究することが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

上記の目的達成のため、まず、浄土真宗資料の原本調査をし、複製本・写真版を集めた。そして、それに基づき、鎌倉時代の漢字・漢語音を蒐集・整理した。

具体的には、以下のように進めた。

23年度

親鸞遺文を中心とする、以下の浄土真宗古写本の複製本を購入した。

西本願寺本『教行信証』
(2011年刊行)

重文 尊号真像銘文(専修寺蔵)
(同朋舎メディアプラン)

真宗重宝聚英 全10巻
(同朋舎メディアプラン)

複製本になっていない浄土真宗古写本の写真複写をした。

写真複写が可能な資料として、龍谷大学図書館・大谷大学図書館所蔵の鎌倉・南北朝期古写本群が存する。これらを、許可される範囲で、複写した。

原本を調査する。

の原本を、実見調査した。

複写物で可能な研究はそれで行なうが、漢字に加点された訓点(仮名・声点・反切等)を問題とするため、写真では判然としない点が残る。また、角筆点は、写真ではまず解読できない。これらの欠を補うため、閲覧を許可された原本調査に出向いた。

4. 研究成果

本研究期間中に、親鸞自筆本における漢字音注のすべてを、コンピュータによって電子データ化することができた。

本研究の特色は、以下の二点である。

字・漢語音の歴史的研究を、浄土真宗資料を用いて成すこと。

資料の性格を考慮し、一個人における漢字・漢語音を、位相論的に研究すること。

すなわち、本研究は、親鸞遺文を中心とす

る浄土真宗資料を対象として、鎌倉時代における漢字・漢語音を、位相論的に研究することを特色とした。

そのため、上記研究対象データは、位相論的な研究に対応できるように情報を付して入力済みである。

本研究によって、親鸞遺文の漢字音は、以下の三種に分類できることが知られた。

字音直読資料

- a. 西本願寺蔵『阿彌陀經註・觀無量壽經註』經文

仏書訓読資料・和化漢文訓読資料・漢語を多用する仮名交じり文

- b. 坂東本『教行信証』

- c. 西本願寺蔵『阿彌陀經註・觀無量壽經註』註文

- d. 浄土論註朱点

- e. 浄土論註付曇鸞伝

- f. 大般涅槃經要文・業報差別經文

- g. 信微上人御釈

- h. 烏龍山師並屠兒寶蔵傳

- i. 聖覚法印表白文

- j. 晨旦國十四代

- k. 西方指南抄

漢語の少ない仮名文

- l. 平易を旨とした漢字交じり片仮名文

一念多念文意・唯信鈔文意（正月十一日本）・唯信鈔文意（正月二十七日日本）。

- m. 短文の漢字交じり片仮名文

淨肉文・十惡，或人夢 見聞集 ，
法然上人御消息・九条殿北政所あて

- n. 片仮名専用文

『三帖和讃』の左注，『一念多念文意』、『唯信鈔文意』末文，など。

- o. 漢字・平仮名交じり文，漢字交じり平仮名文

専修寺蔵『唯信鈔(平仮名本)』，書簡。

- p. 短文の漢文（名号・抜き書きの類）

諸名号・讃銘，浄土五會念佛略法事儀賛 見聞集 ，数名目，須彌四域經文，三骨一廟文，曇摩伽菩薩文，聖覚法印表白文 見聞集 ，御念

仏之間用意聖覚返事 見聞集 ，
四十八願文断簡，道綽略傳，大集經・
涅槃經文，浄土本縁經文

この見通しのもと、下記に記した研究成果を公表することができた。

今後も、研究期間中に入力したデータを活用して、さらなる研究を進めたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計9件)

1. 佐々木 勇，親鸞自筆『西方指南抄』における漢音について，国文学攷，第219号，査読有 ， 2013 ， pp.1-12 ，
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00035280>

2. 佐々木 勇，鎌倉時代における呉音声調の位相差 親鸞加点本を資料として ，国語国文，第82巻第1号，査読有 2013 pp. 15-33 ，
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00034078>

3. 佐々木 勇，親鸞加点本に呉音声調の年代差は無い，広島大学大学院教育学研究科紀要，第二部第61号，査読無，2012，pp. 1-7 ，
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00034014>

4. 佐々木 勇，興正寺蔵『浄土三經往生文類』(広本)の字音注について，浄土真宗総合研究，第7号，査読有，2012，pp. 81-98 ，
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00033663>

5. 佐々木 勇，親鸞使用の声点加点形式について 坂東本『教行信証』声点の位置づけ ，訓点語と訓点資料，第129輯，査読有 2012 ， pp.1-18 ，
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00033664>

6. 佐々木 勇，専修寺蔵『四十八誓願』建長八年真佛写本の朱訓点について，高田学報，第100輯，査読有，2012，pp. 1-13

7. 佐々木 勇，中世浄土真宗資料に見られる急・緩入声点と舌内入声音，広島大学大学院教育学研究科紀要，第二部第60号，査読無，2011 ， pp. 1-9 ，
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00032145>

8. 佐々木 勇，専修寺蔵『入出二門偈頌』建長八年真佛写本の訓点について，ことばとくら，第23号，査読無，2011，pp. 3-11 ，
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00031731>

9. 佐々木 勇 , 西本願寺蔵『浄土三部經』正平六年存 覺書写本の朱点について 親鸞自筆加点本および龍谷大学蔵南北 朝期加点本との比較 訓点語と訓点資料, 第 126 輯 , 査読有 , 2011 , pp. 34-48 , <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00031278>

〔学会発表〕(計 2 件)

1. 佐々木 勇 , 親鸞聖人の漢字音に見られる諸相 , 龍谷大学真宗学会第 67 回大会 , 2013 年 11 月 5 日 , 龍谷大学大宮学舎 清和館三階ホール

2. 佐々木 勇 , 親鸞使用の声点加点形式について 坂東本『教行信証』声点の位置づけ , 第 105 回 訓点語学会研究発表会 , 2011 年 10 月 16 日 , 東京大学山上会館

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 勇 (SASAKI ISAMU)

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号 : 50215711